

内容構成案

番号	1、2、3
分類	地域理解プログラム「宮城県仙台市 四ツ谷用水」
教材名（仮）	「仙台の発展と四ツ谷用水」
総尺（分）（仮）	15（本編）、5（ダイジェスト）
制作する言語	日本語、英語
教材の目的	<p>宮城県仙台市は東北唯一の政令指定都市で、居住者が 100 万人を超える東北地方の中心都市である。西部は奥羽山脈に隣接し西部は太平洋に面しており、都市でありながら自然も豊かで、「杜の都」として知られる。</p> <p>仙台の発展は、伊達政宗が、交通の要衝であり、山や川という自然の要害を理由として青葉山に築城し、広瀬川を挟んだ対岸に城下町を建設したことが始まりといえる。しかし、仙台は広瀬川が作り出した河岸段丘が広がる土地であり、都市計画には課題があった。それは川面と城下町との間に高低差があり、水の確保が困難なことだった。そこで伊達政宗は、川面と高低差の少ない広瀬川上流から城下町に水を引く人工的な用水路を作る四ツ谷用水を計画した。上流から城下町までの間には山や沢があり、困難な事業であったが、隧道や掛け樋を作るなど技術を駆使し、用水の本流を完成させた。またこの本流から分岐する支流を整備し、市街地を広く流れる用水路網を建築した。</p> <p>四ツ谷用水によってもたらされた水は、生活用水や農業用水、また防火用水など多様な形で利用され、仙台の生活を支えた。また用水路から滲出した水は、地下水となり井戸水や湧き水を豊かにし、「杜の都」の所以とされる町の屋敷林を支えた。</p> <p>時代の変遷とともに、暗渠化されるなど次第に見えなくなったが、現在でも仙台港付近の工場群で活用される工業用水に使われるなど、その役割を変えて仙台を支えている。また海岸線への自然傾斜を利用した四ツ谷用水は、近代の下水道整備にも影響を与えたと考えられ、自然硫化する設計は 2011 年の震災時でもその機能への損害を最小限にとどめた。</p> <p>都市発展の背景にあった課題と解決のための努力、また現代にも通用する知見の共有を通じ、様々な開発課題に直面する途上国に対し、学びやマインドセットにつながる教材の作成を行う。</p>
活用の可能性	<p>東北を始めとした日本で学ぶ留学生による活用、さらに、上下水道分野や地域開発に従事する国内外の関係者の活用が期待される。</p> <p>また、途上国の行政関係者を対象に、関連分野の協力や研修での教材他、広く活用されることが想定される。</p>

内容構成案

教材の構成（仮）	<p>1. 仙台市の概要（3分） 「杜の都」と呼ばれる仙台市の概要を、風土や観光資源も含め紹介する。また、この都市発展を支えたのは何かという問いを提示する。</p> <p>2. 伊達政宗と四ツ谷用水計画（5分） キーパーソンとして伊達政宗を紹介し、築城や仙台開発の歴史的経緯を簡単に説明する。また仙台の地理的特徴を説明し、城下町の建設にあたり直面した課題として水の確保を取り上げる。課題解決の方法として計画された四ツ谷用水を説明する。</p> <p>3. 四ツ谷用水整備の課題解決と現代（5分） 用水の整備にあたってどのような課題に直面し、解決をしたかを説明する。また都市の発展、時代の流れに伴う変化について述べ、現在において、どのように活用されているかを紹介する。 現在も活用される遺産を、未来にどうつなげるかという現代の課題に触れる。</p> <p>4. 結び（2分）</p>
取材予定地（仮）	・宮城県仙台市
補足事項	取材時期は5月～7月を想定。

内容構成案

番号	4, 5, 6
分類	地域理解プログラム「岩手県遠野市宮守川上流生産組内の取り組み～「一集落一農場」～
教材名(仮)	「一集落一農場」 一つにまとまった村
総尺(分)(仮)	15(本編)、5(ダイジェスト)
制作する言語	日本語、英語
教材の目的	<p>遠野市宮守町は、寒冷地帯に属し、冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした農林業を基幹産業とし、水稻を中心に野菜やホップ栽培、豊富な湧水を利用したわさび栽培、畜産との複合経営が営まれているが、総面積の8割は山林・原野が占める中山間地域である。農地は、猿ヶ石川の支流の宮守川上流に沿った比較的平坦な地域、沢合いの起伏の緩やかな場所に点在する。</p> <p>宮守川上流生産組合は、上宮守一区、同二区、鹿込地区の3つの集落を中心に活動している。同地域は、兼業農家や自給的農家といった小規模経営の農家が大半を占めていたため、小さな区画のほ場が全体の8割を占め、農道も狭く(2m前後)大型機械の導入が難しく、農業を取り巻く環境は厳しく地域活力の低下が懸念されていた。</p> <p>そのため平成3年度(1991年度)に国主導の「農業農村整備事業」を進める「推進委員会」(正式名称記述)を組織し、平成6年度(1994年度)に、山の斜面に1600枚程度あった水田を350枚程度にまとめる事業を完成させた。さらに平成14年度(2002年度)には河川改修や村道改良事業が実施され現在の基盤インフラの整備が完成した。</p> <p>「推進委員会」は、当初農業インフラ整備を推進するための組織であったが、地域の農業のあり方や住み良い地域づくりについて話し合いを重ね、集落営農の必要性についても地道な説明・対話を通じて合意形成を図った。その過程において、三つの集落が一つとなり、生産効率の悪い零細・自己完結型農業から脱却して集落営農を目指す「一集落一農場」構想について合意形成が図られた。</p> <p>「推進委員会」は、設立から5-6年が経過した頃から、①組織の目的を明確化し、②専属の事務管理体制・税務対応等を強化するために、任意組合から法人化へと脱皮を行った。</p> <p>その後、直売所の設置、無人ヘリの導入、ブルーベリー園の設置などのために、専門の部会も設置して組織整備、人材育成も同時に行った。また、地域の連携組織である、環境部会、宮守川上流友の会、宮守グリーンツーリズム協議会等との協働も積極的に行ってきた。平成23年度(2011年度)に、全国農林水産祭むらづくり部門における「天皇杯」を受賞した。</p>

内容構成案

	<p>一連の取り組みにおける特徴は以下の通り。</p> <p>耕作放棄地とならないよう、高齢化農家の作業を代行する農作業受託、組合員が雇用者として安心して働けるよう労災・雇用保険への加入、健康保険・厚生年金加入、加工所と直売所の設置、製品のブランディングという六次産業化の推進、女性組合員が中心の加工場の運営やレンギョウの里づくり等の景観形成、雇用の場の確保、高齢者が培ってきた豆腐や味噌等の製造技術の継承。</p> <p>(⇒これらの取り組みに含まれるエピソードを抽出)</p> <p>宮守川上流生産組合の実践および知見の共有を通じ、農村開発・ほ場整備における様々な課題に直面する途上国に対し、課題解決のための視点を提供するだけでなく、人口減少の進む中山間地域の地域づくりに携わる日本の関係者の学びにもつながる教材を作成する。</p>
活用の可能性	<p>東北を始めとした日本で学ぶ留学生による活用、さらに、農業開発や地域開発に従事する国内外の関係者の活用が期待される。</p>
教材の構成（仮）	<p>1. 厳しい営農環境と国主導によるほ場整備事業の活用（6分）</p> <p>宮守川上流生産組合が位置する3つの集落は、中山間地という農業にとって極めて不利な地理条件にあったが、当時、どのような将来の危機感があり、それを乗り越えるためにどのような課題があったかを紹介する。「一集落一農場」の構想について、初代宮守川上流生産組合長の言葉を引用しながら紹介する。そこにあった危機感や未来のビジョンや地域への想いを基に行われた対話を重視し、そこから見えてきた課題を解説する。それらの課題に対して、限られた人材と財源を活用達成するために取り組んだ宮守川上流生産組合の事業について説明する。</p> <p>2. 三つの集落が一つにまとまった鍵（6分）</p> <p>地域の推進委員会を主導した三人のリーダーが共通して感じていた危機感、先見の明、役割分担、そしてそれを国・県や自治体がどのように支えたかにも触れ、三つの集落が、地域の農業のあり方や住み良い地域づくりに関しても話し合いを重ね、集落営農の必要性について数百回に及ぶ地道な対話の場を設けながら地域をまとめ上げた取り組みについて説明する。</p> <p>課題解決のために初代組合長のリーダーシップのもと実施された各種取り組みを、当時の宮守川上流生産組合に携わった方々のインタビューも織り交ぜながら振り返る。</p> <p>鍵となる視点は、以下のとおりであり、現在、様々な課題解決における有効な方法論として提唱される「コレクティブインパクト」の考え方</p>

内容構成案

	<p>にも共通する知恵が含まれていないか。</p> <p>①危機感の共有（緊急性、ビジョン共有、共通認識、解決目標の共有＝共通のアジェンダ）、と事業構想を牽引するリーダーの存在と役割</p> <p>②相互補完できる外部組織との協働（＝強味、得意分野の結集）</p> <p>③継続的なコミュニケーション（信頼関係、オープンなコミュニケーションがあること。座談会、「一集一農」、飲み会？等）、</p> <p>④活動を支えるバックボーン組織の編成（農業法人化によるサポート）、</p> <p>⑤資金の有効活用による成果の提示（目に見える成果＝評価）</p> <p>3. 現代に引き継がれる経験（と新たな課題）（2分）</p> <p>宮守川上流生産組合の知見や関係者の想いが、どのように地域の農業者や営農には携わっていない地域住民にも引き継がれているか、現在の組合の運営に携わる副組合長および事務局長のインタビューを通じて、現在および将来的な取り組みについて紹介する（支援する行政のインタビューも検討）。</p> <p>少子高齢化・人口減少が進む日本の中山間地において、</p> <p>① 耕作放棄地の減少に歯止めをかける、</p> <p>② 棚田の景観を維持しつつ、棚田ツーリズムも展開して宮守ファンを増やす、</p> <p>③ 外部からの農業インターンを受け入れながら農業人材の育成に取り組む、</p> <p>④ 加工品の廃棄物を有効活用した環境に配慮した製品づくりを行う、</p> <p>⑤ そこに住む障害者の方々の社会参画や労働環境の提供と通じた農福連携を展開する、</p> <p>1. 結び（1分）</p>
取材予定地（仮）	・宮城県遠野市(旧宮守町)
補足事項	取材時期（棚田風景撮影のため、初夏、収穫期、厳冬期）

内容構成案

「構成表」サンプル

●アウディの掃除機 掃除機の種類 店舗プロモーションビデオ		
映像内容	説明内容	Time
映像オープニング ○商品音場 ○商品ロゴ・アニメーション ○商品カット	映像オープニング ○スピード・クリーンなME ○登場感のあるBGM ○ナレーション 「忙しい季節もうワクワクお掃除！油汚れをササッと洗浄！手間いらず！人と環境にやさしいアウルキは最新のクリーナー！アウディの掃除機！アウディの掃除機！」	30*
○スタジオセット ・デモンストレーター登場 映像内容	説明内容 ○商品紹介：TV通販インフォーマーシャル風 ○デモンストレーター 「(概要)今日は、忙しい季節のお掃除も手間いらず！アウディの掃除機！アウディの掃除機！アウディの掃除機！」	
映像商品特長説明 ○商品説明：デモ ・デモンストレーター実演	映像商品特長説明 ○デモンストレーター実演 ○デモンストレーター 「このアウディの掃除機は、キッチンまわりの食卓の油汚れや油ハネを、ササッと洗浄！」 ○デモしながら説明 (原料に水を使っているから、二度試きの必要なし) (洗浄力にくわえて除菌力もある)	

コーナータイトル

時間軸

30*

説明内容